

《なぜ勉強しなければならないのか》

平成29年の大阪大学前期の英語の入試問題Ⅲで次のような問題が出題されました。

「インターネットのQ&Aサイトに中学2年生から次のような相談がありました。
私は、はっきり言って勉強が嫌いです。特に嫌いなのが英語と数学です。一生外国に行くつもりなんかないし、日本では日本語が使えれば生きていけるのに、なぜ使う必要もない外国の言葉を、こんなに一生懸命勉強するのかわかりません。

数学もそうです。買い物をするのに方程式や図形はいりません。なぜ x や y を長々と書きまくるのか、全然理解できません。他の科目もいっぱいおぼえさせられるので嫌いです。(でも体育や音楽は楽しいから好きです)

この悩みをお父さんに言っても、ただ勉強しなさいと言うだけです。でも、正月におじいさんに聞いたところ、お父さんも中学の時は全然勉強しなかったそうです。なぜ私は勉強しなければならないんでしょうか？

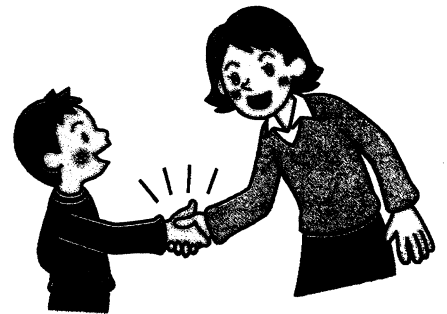
さて、あなたならこの相談者にどのようなアドバイスをしますか。70字程度の英語で相談者へのアドバイスを書きなさい。」

さあ、どう答えましょうか？

この中学生に同調して勉強しなくていいと答えてしまったら、アドバイスになっていないのでおそらく0点でしょう。

英語に関しては、一生外国に行く気がなくても、この**グローバル社会**においては外国の方と接する機会が少なからずあるということ。また、東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、外国の方と接する機会が今以上に多くなったこと。

海外に行かなくても、英語を勉強することはグローバルな世界で生きていく中ではとても大切なことで、今の生活をより豊かにしてくれることが予想されること。



数学については、確かに方程式や図形が分からなくても普段の生活に困りません。しかし、**数学は筋道立てて考える論理的な学問**です。論理的思考力、計算力などを身に付けることができます。暗算(計算)は遅いより速い方が生活する上で便利なこともあるでしょうし、議論の場で相手を納得・理解させるためには筋道を立てて話す力が必要です。**数学は自然科学(物理や化学など)の研究には欠かせない道具です。その道具が使いこなせないと今のような科学の発展はなかったことでしょう。**

大学側の意図として、70字程度でまとめられるだけの英文力を問うことはもちろんですが、**学ぶことに対して受験生がどんな考えをもっているか**も問うているようです。大学は学ぶところであるというメッセージかもしれないですね。